

製造業のデジタル化に関する アンケート調査結果 (概要版)

Digitalization in the Manufacturing Industry



調査概要

1. 目的 製造業のデジタル化に関する現状把握
2. 期間 令和5年12月14日～令和6年1月17日
3. 対象 会員企業のうち製造業1,000件
4. 方法 FAX・メール送付/FAX・ウェブ回答
5. 回答数 216件（回答率：21.6%）

属性

| 業種 | 件数 | 割合 |
|--------|-----|--------|
| 工作機械 | 18 | 8.3% |
| 繊維・化学 | 60 | 27.8% |
| 食料品 | 34 | 15.7% |
| 鉄鋼・金属 | 31 | 14.4% |
| 電子部品 | 3 | 1.4% |
| 眼鏡・眼鏡枠 | 12 | 5.6% |
| 非鉄金属 | 7 | 3.2% |
| 生活雑貨品等 | 14 | 6.5% |
| その他 | 37 | 17.1% |
| 合計 | 216 | 100.0% |

| 売上高 | 件数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 1千万円未満 | 9 | 4.2% |
| 1千万～5千万円未満 | 38 | 17.6% |
| 5千万～1億円未満 | 30 | 13.9% |
| 1億～5億円未満 | 70 | 32.4% |
| 5億～10億円未満 | 17 | 7.9% |
| 10億～50億円未満 | 37 | 17.1% |
| 50億～100億円未満 | 6 | 2.8% |
| 100億円以上 | 9 | 4.2% |
| 合計 | 216 | 100.0% |

| 従業員数 | 件数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| 0～10名 | 94 | 43.5% |
| 11～20名 | 33 | 15.3% |
| 21～50名 | 41 | 19.0% |
| 51～100名 | 24 | 11.1% |
| 101～300名 | 18 | 8.3% |
| 301名以上 | 6 | 2.8% |
| 合計 | 216 | 100.0% |

凡例

- 端数処理によりパーセンテージの合計値が合わないことがある。
- 本調査における「デジタルツール」とは、IoTやAI、クラウドサービス、販売・生産管理ソフト、アプリケーション、チャット、Web会議システム等を指します。また、それらを活用することを「デジタル化」と定義します。パソコンやタブレットなど単なるデジタル機器の購入は、デジタルツールの導入にはあたりません。
- 本調査では、デジタル化の進捗状況を以下のように定義します。

| 自社のデジタル化の現状・進捗 | |
|-----------------|--|
| ↑ デジタル化 ↓ | 【ステージ3】 デジタル化を実現し業務効率化だけでなく新たな価値の創造に繋がっている 複数のデジタルツール導入により、組織の活性化や新たな製品の開発などができている。 例) ソフト同士を連動させ工程を見える化、顧客情報管理システム (CRM) の導入 |
| | 【ステージ2】 事務・現場作業ともにデジタル化を進め、業務効率化に繋がっている 製造現場を含め、社内の各作業をデジタル化し業務効率化やコストカットを実現している。 例) CAD活用、クラウド基幹システムの構築、ラインへのロボット導入、AI外観検査機の導入 |
| | 【ステージ1】 事務作業はデジタル化している（製造現場では未着手） 事務部門ではデジタル化に着手しているが現場では未着手で、まだまだ物足りなく感じている。 例) 伝票や請求書のペーパーレス化、リモート会議の実施、ECサイト開設、出退勤管理のデジタル化 |
| | 【ステージ0】 デジタル化未着手（パソコンで入力、メール使用程度） 業務はほとんど手作業や口頭であり、デジタルツールを活用していない |

※【参考】経済産業省「攻めのIT活用指針」および金融庁資料を参考に当所にて作成

調査結果まとめ

まとめ①

- デジタル化を進める企業が全体の6割以上を占めるも、
小規模な企業では足踏み傾向にある。

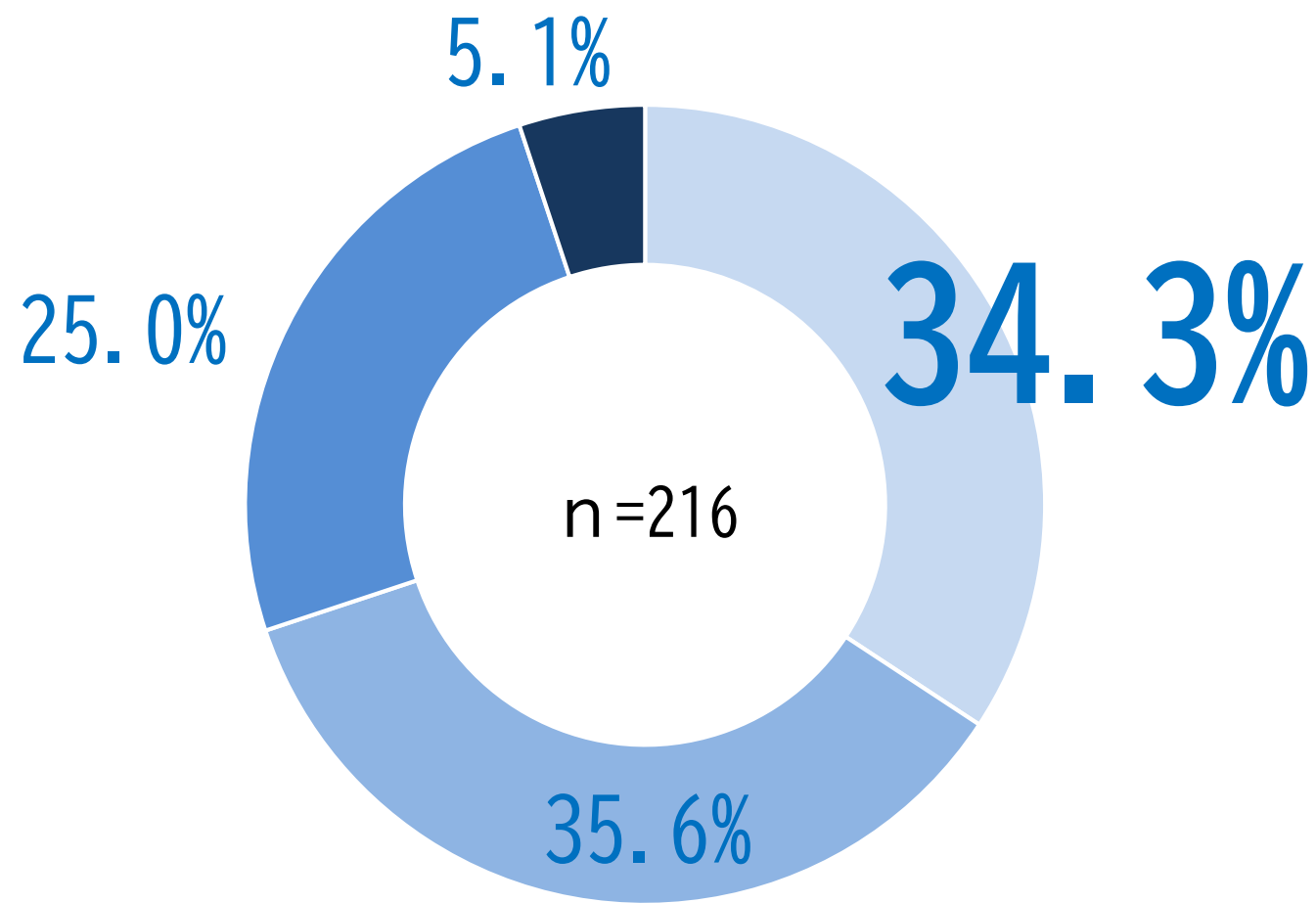
まとめ②

- 社長と役員がリーダーシップを発揮してデジタル化を推進。

まとめ③

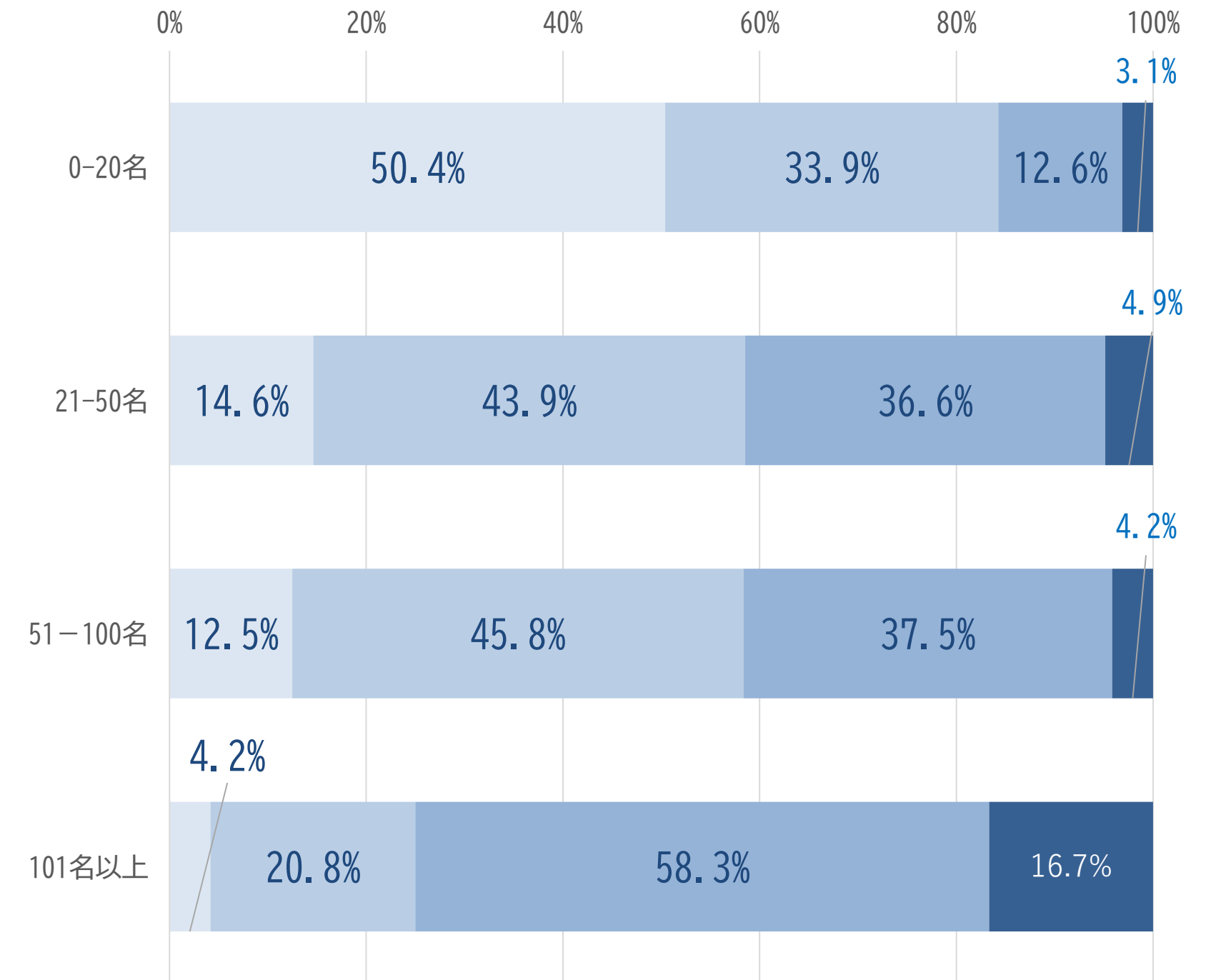
- さらなるデジタル化に向け、デジタル化の費用対効果が不明確であるとともに、デジタル化を担う人材が不足していることが課題。

自社のデジタル化の進捗状況



■ ステージ0 ■ ステージ1 ■ ステージ2 ■ ステージ3

従業員規模別



n=216

自社のデジタル化の進捗状況 (具体的な取り組み)

ステージ1

- クラウドサービスを利用した…
インボイス、電子帳簿保存法への対応／勤怠管理
見積書や請求書を一元管理／帳簿管理など。
- 進捗管理の一部デジタル化。
- ペーパーレス化（電子化）。
- 情報共有、伝達のデジタル化。
- ハンディターミナルやバーコードリーダー
を導入した出荷チェック。

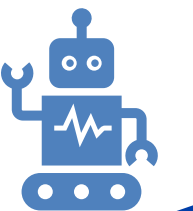


ステージ2

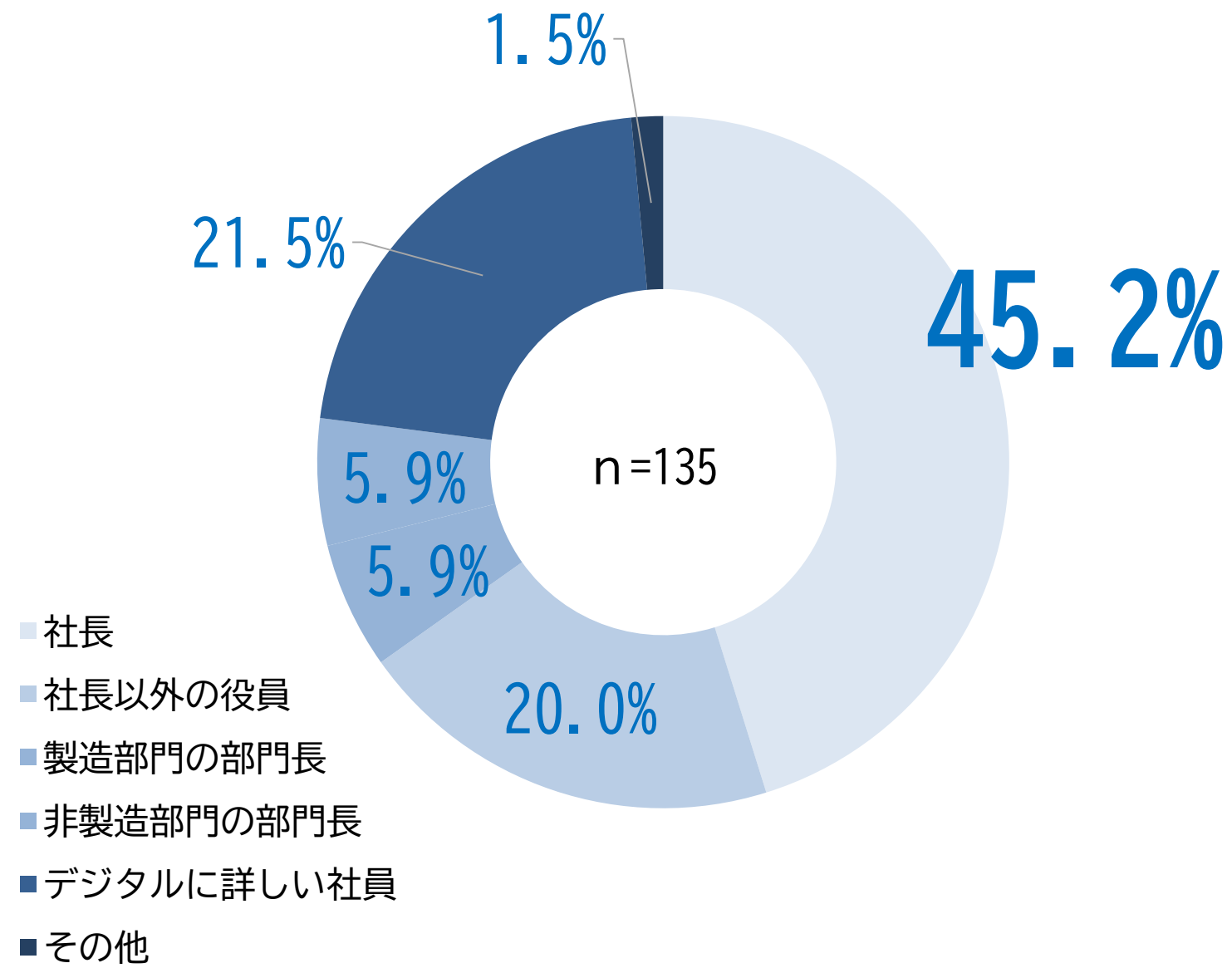
- クラウドサービスを利用した…
営業資料やデータ収集などを管理／工数・生産管理など
見積書や請求書を一元管理／帳簿管理。
- 生産ラインでのロボット、IoTの導入。
- 自社でデジタル人材を育成しシステムの内
製化に取り組んでいる。
- AI外観検査機、AI図面検索ソフトを導入。
- 工程管理、物流管理と基幹システムを連携。

ステージ3

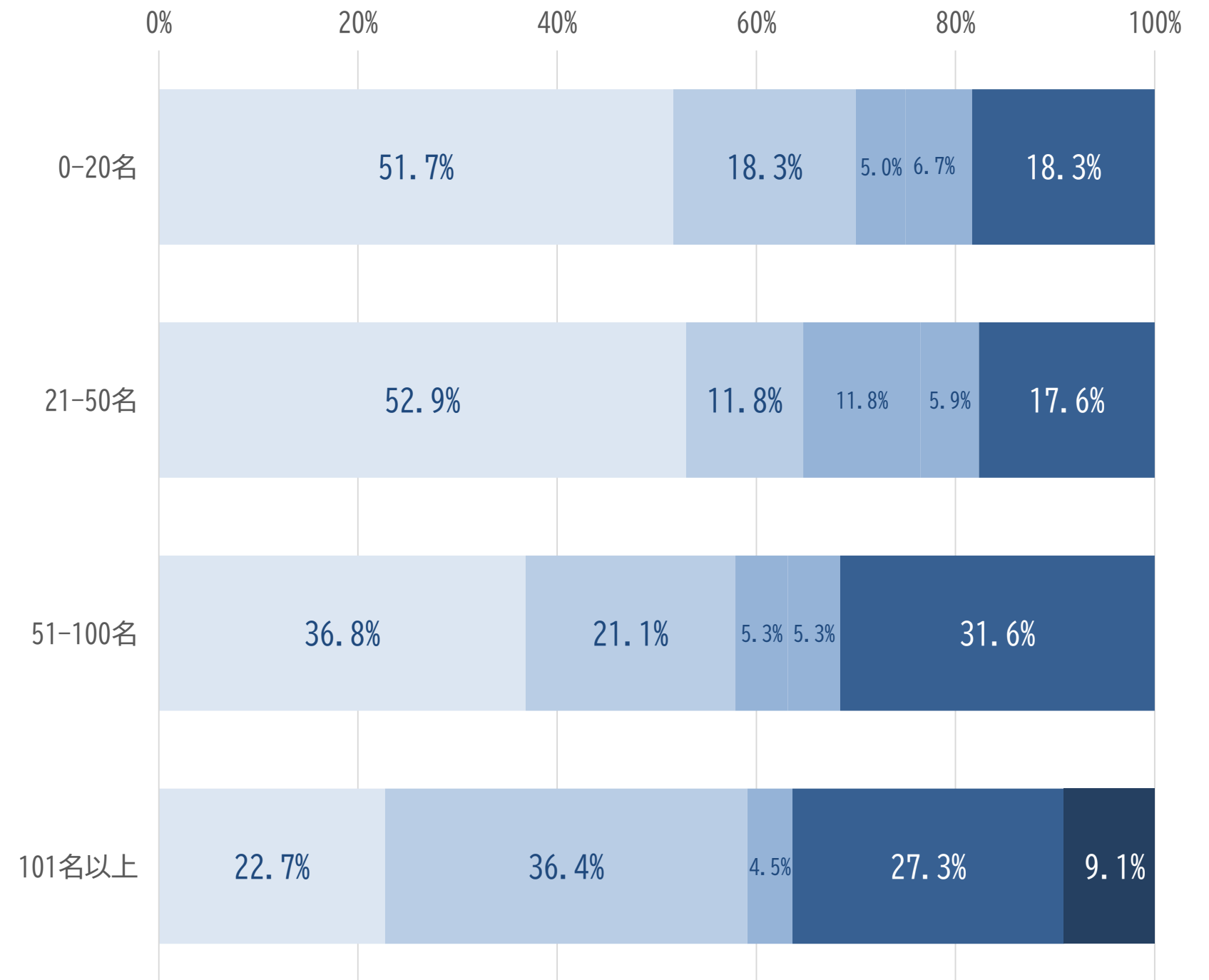
- 勤怠給与システムのクラウド化。
- カメラ設置した自動検査（省力化）。



デジタル化を担う推進役



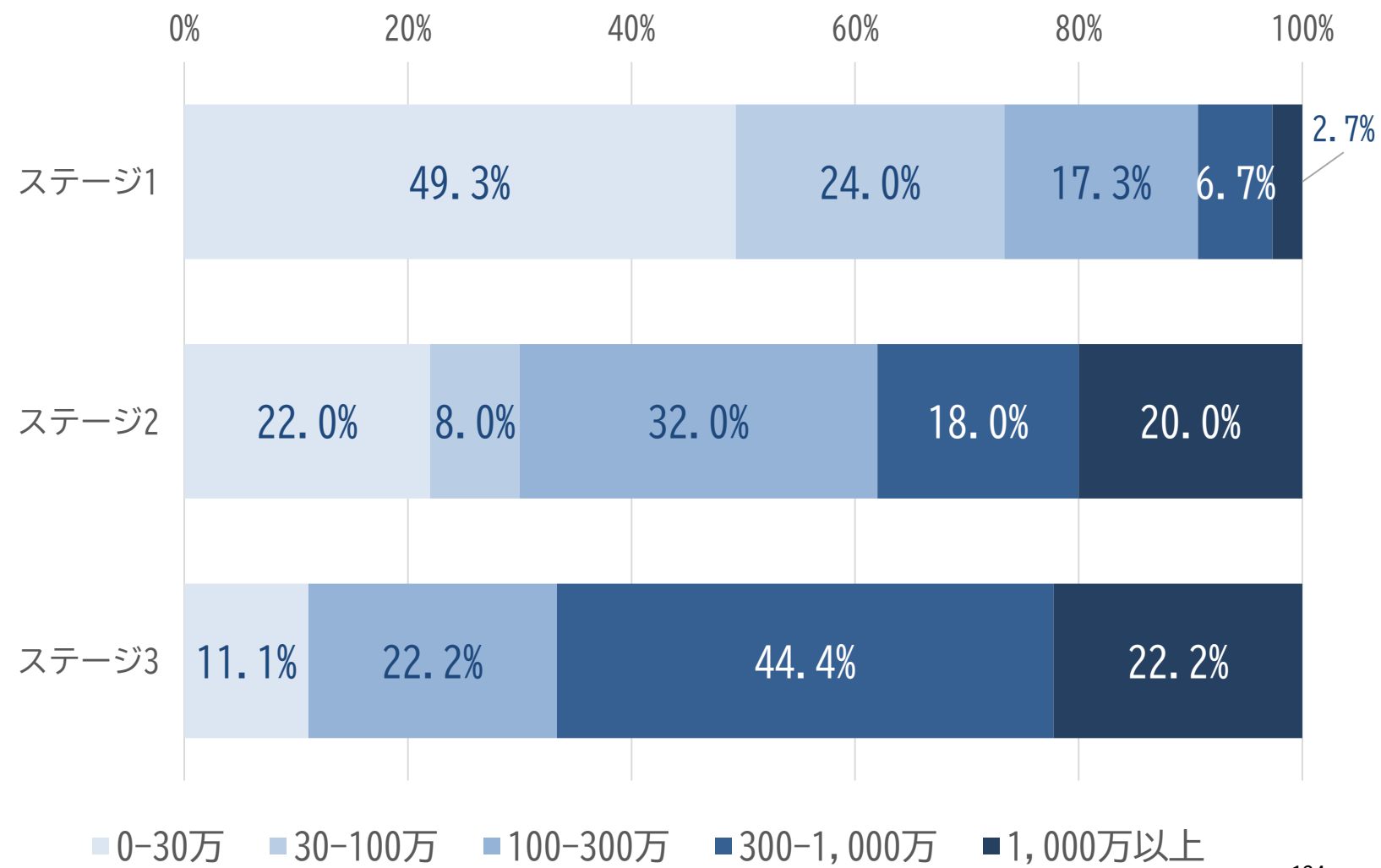
従業員数別



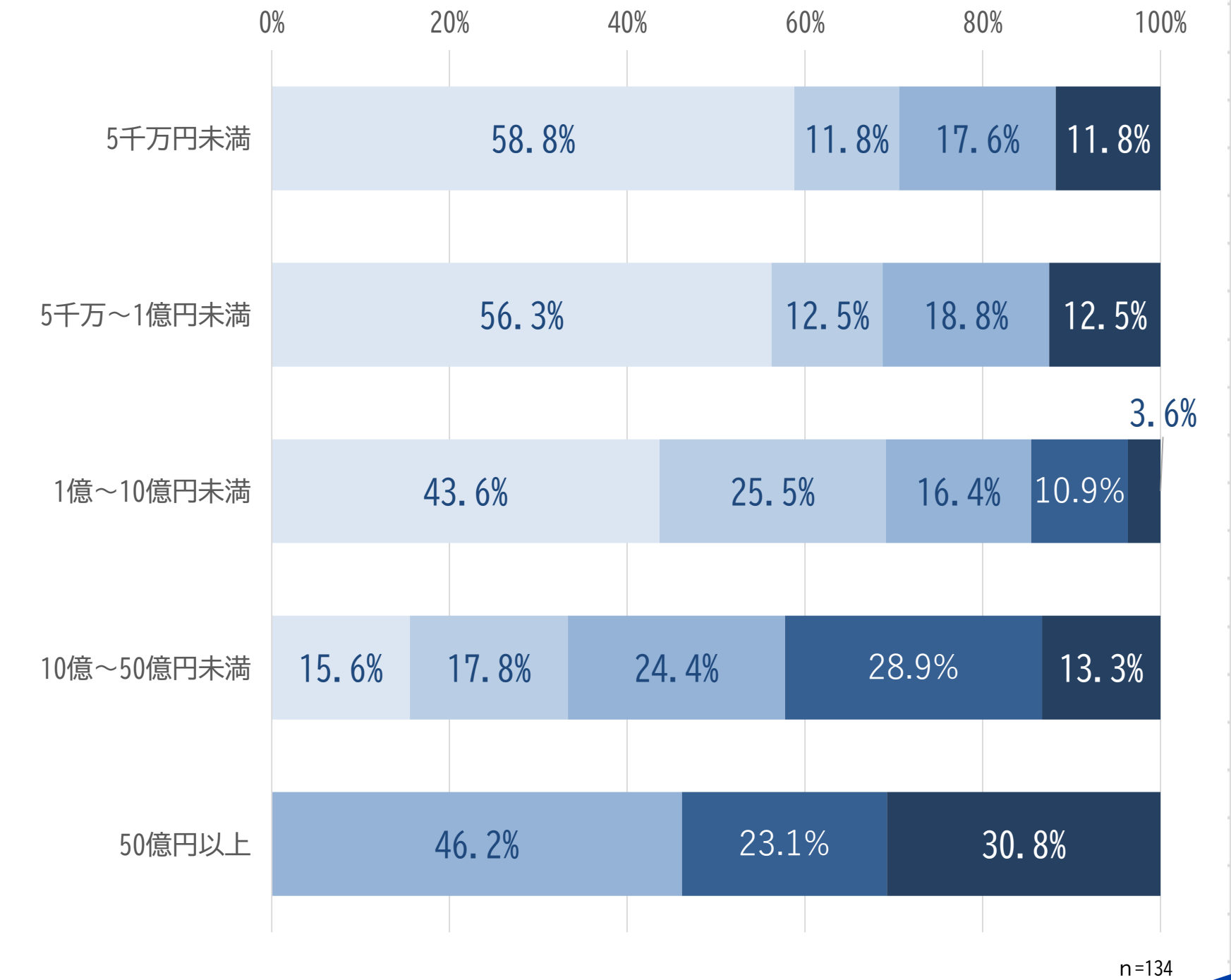
n=135

デジタル化に向けた設備投資

デジタル化の進捗状況別



売上高別



デジタル化に向けた設備投資 (具体的な内容)

~100万円

- クラウドサービス利用料。
- 勤怠管理等のソフトウェア導入。
- 請求書発行の自動化。
- 電子帳簿保存法への対応。
- アプリによる固定電話とスマホの連携。
- 災害用安否確認ツールの導入など。

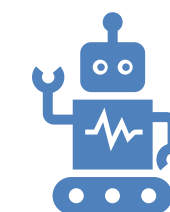


100~300万円

- インボイス対応に向けた既存システムの改善。
- デジタル化に向けたコンサルタント契約。
- マーケティングシステムの導入。
- AI図面検索ソフトの導入など。

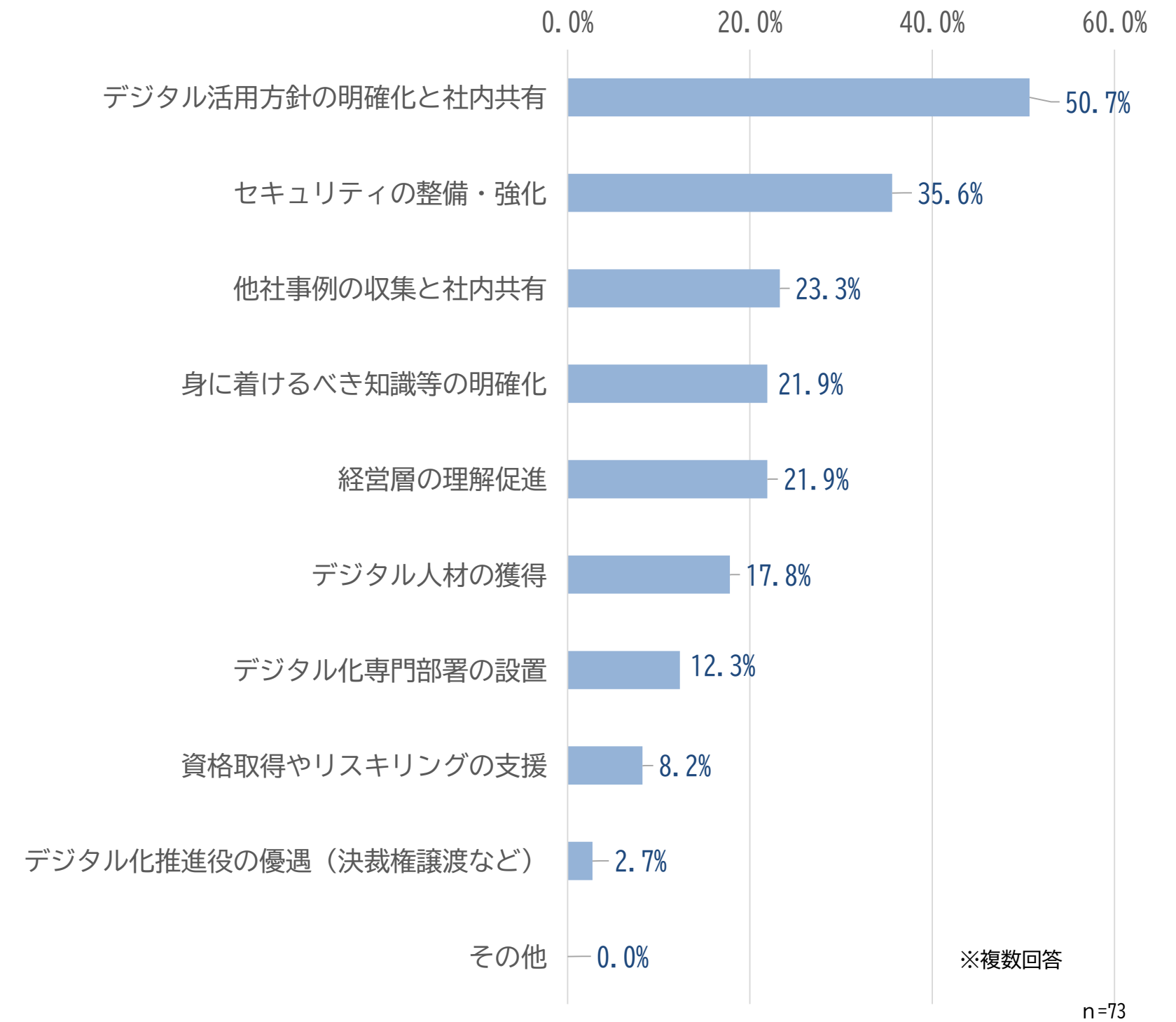
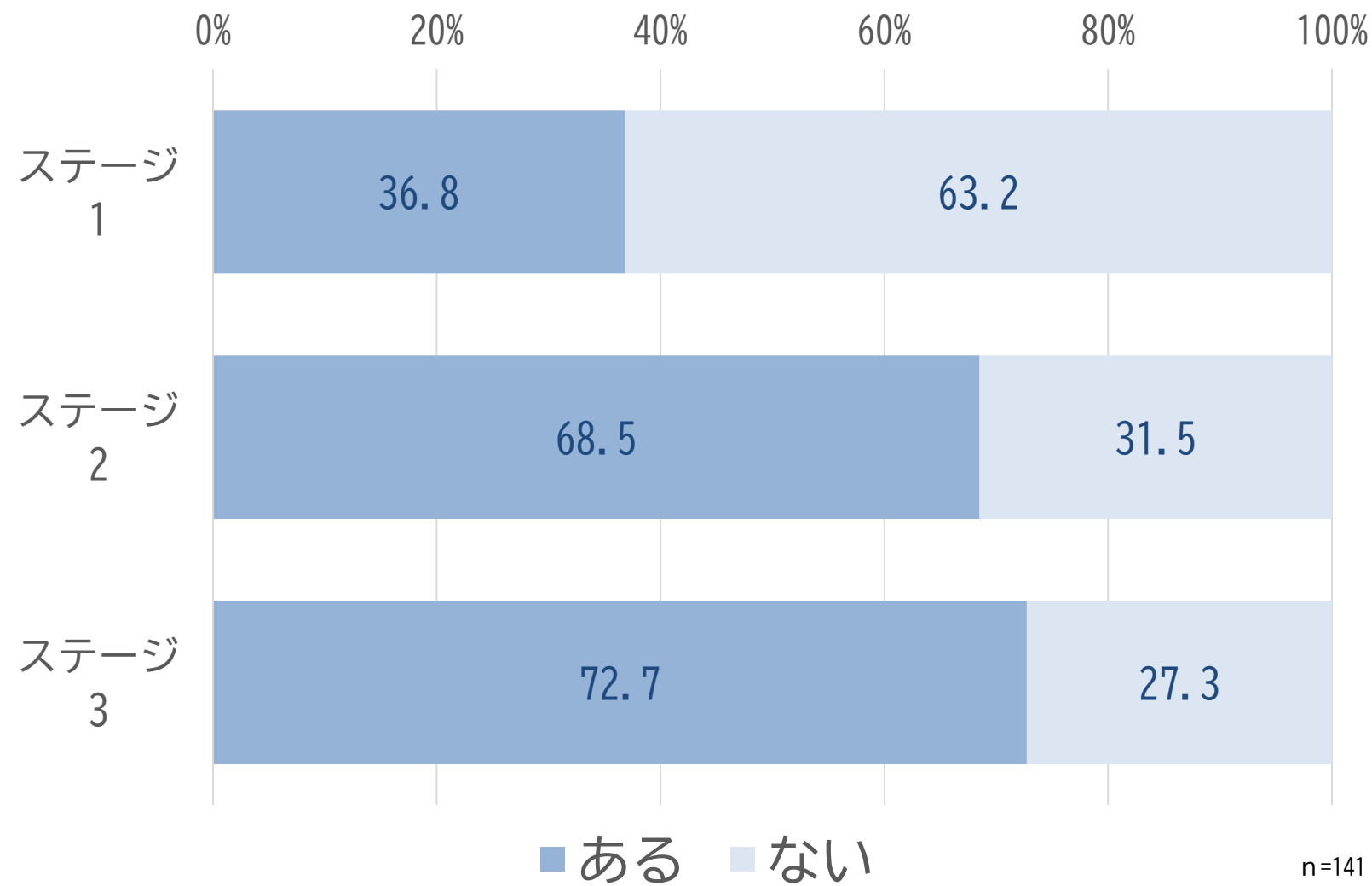
300万円超

- デジタル化に向けたコンサルタント契約。
- 受発注／生産／倉庫（在庫）管理システムの導入。
- 海外拠点とのデータ交換用システムやコミュニケーションツールの導入。
- 古い設備のIoT化や自動化。

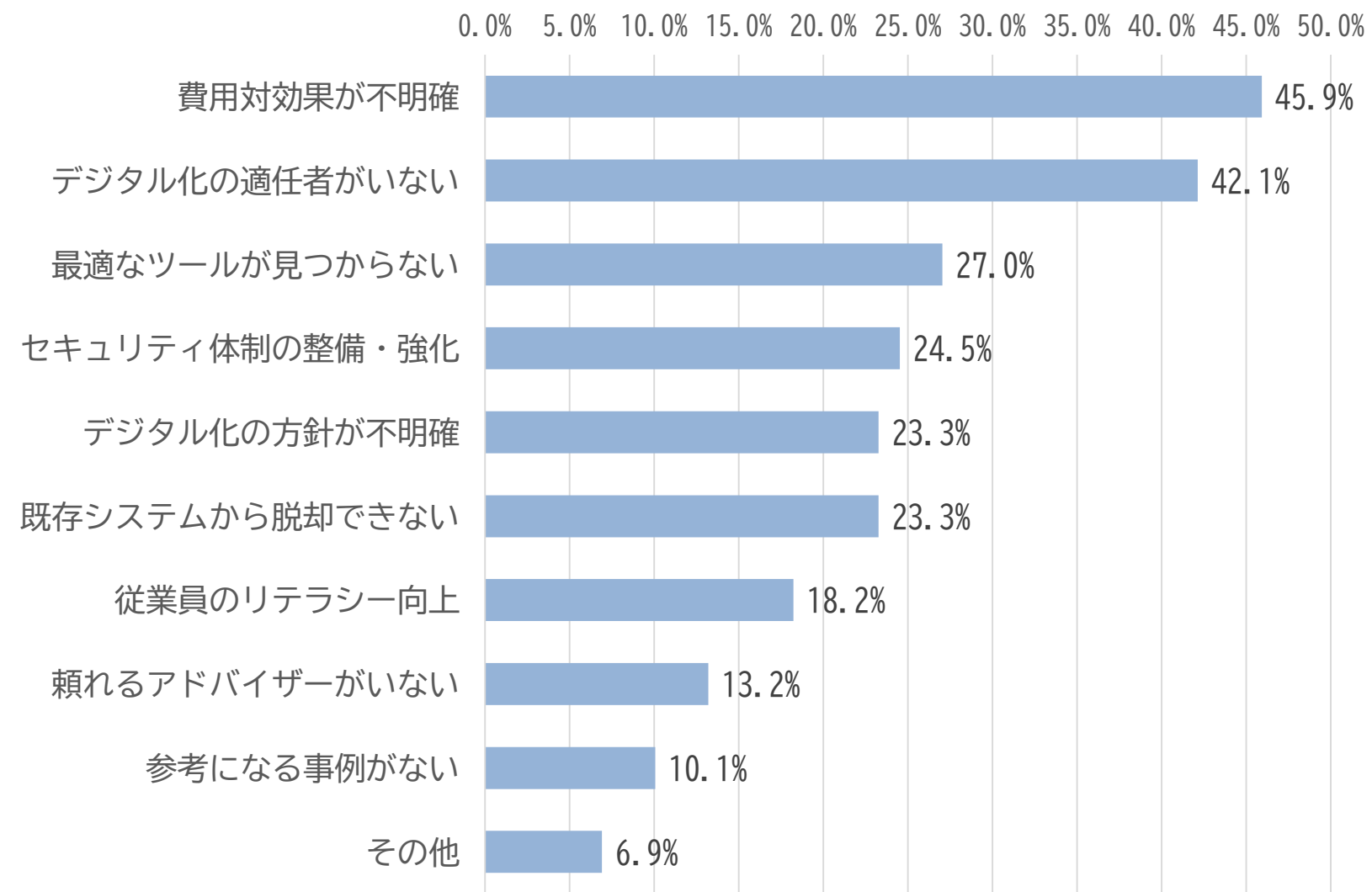


デジタル化に向けて強化した取り組み

デジタル化の進捗状況別



さらなるデジタル化に向けた課題



n=159



デジタル化に関する悩み・疑問等 (自由記入／一部抜粋)

ステージ0

- 会社の平均年齢が高く、デジタル化を推進する人材も不足しており、限界がある。
- 取引先の高齢化に伴い、デジタル化が困難。
- 少人数につき、デジタル化の効果が出ない。
- デジタル化の必要性は理解しているが、規模に見合ったデジタル化のプランがなく、金銭的な面から着手できない。
- 目指す先が不明瞭。
- セキュリティ対策など適任者がいない。

ステージ1

- 何を、どのようにデジタル化すべきか不明確で、費用の見積もりもできない。

ステージ2

- 技術承継に課題を感じている。
- サブスクリプションのサービスを複数利用しているが、効果が不明確。
- 技術の進化に追いつけない。
- DXのロードマップを作れる人材が少ない。